



桂枝人参湯

傷寒論

プロフィール

本方は『傷寒論』下篇に「太陽病、外証いまだ除かずして、しばしばこれを下し、ついに協熱下痢し、利下止まず、心下痞鞭し、表裏解せざるもの、桂枝人参湯之を主る」とあり、本来は急性熱性疾患の誤下による下痢を治療する処方であったと考えられるが、転じて主に急性感染性胃腸炎の下痢に用いられてきた。近年、藤平が頭痛に対しての報告¹⁾をして以降、頭痛に対する使用の報告が増加している。

方解

本方は、人参湯に桂枝を加えたものであるが、人参湯に比して甘草の量が多い。適応病態は、表と裏に同時に寒邪が存在する場合と考えられる。桂枝はその辛温解表作用によって表証を去ると同時に通陽し、乾姜は温中散寒し、白朮は健脾燥湿し、人参は補脾益気し、甘草を増量して補益を強め、調中をはかる。本来は、表証が残っているのに、誤下により脾胃の陽気が損傷した結果虚寒が生じ、表邪が心下に集まり心下痞鞭を呈し、下痢が止まらない表裏不解を治すための処方であった。頭痛に対しては、桂枝の通陽と乾姜の温中散寒が脾胃虚寒を温め、白朮・人参・甘草がこれを助けるというメカニズムであると思われる。この場合、下痢はあまり関係がない。

四診上の特徴

自覚的には胃部の痞え感を、他覚的には同部の堅鞭を認める。下痢は水瀉性の下痢になるほどはなはだしい場合は少なく、むしろ下痢を主目標とするのではなく、みぞおちのつかえに頭痛、のぼせのような上衝という症状を伴っている時に使う²⁾。

矢数は、「脈は浮弱で数、舌はあまり変化がない。腹証は心下痞鞭とあるが痞のこともあり、必発とは言いがたい。」と述べている³⁾。松田は本方の適応について「冷え症で下痢しやすく、虚証の人に用いる薬方です。急性の熱の出る病気に用いるときは、頭痛が強く、熱が出て汗が出る傾向があり、寒気がするというときです。熱のない慢性疾患に使用するとき、胃の部分がかえ、食べたものがいつまでも停滞してい

組成	桂枝 4, 甘草 3~4, 人参 3, 乾姜 2~3, 朮 3
主治	外感風寒, 脾胃虚寒
効能	温裏解表, 益気消痞

る感じがあって、消化が良くない状態です。それに頭痛、のぼせ、手足がだるい、そして下痢をするという状態です。」と述べている⁴⁾。宮崎らは、慢性疾患患者を対象とし証に応じて52例に桂枝人参湯を投与した。その結果、87%の有効率を得たが、有効な45例中41例がやや虚証から虚証であり、頭痛、疲労倦怠、手足冷などを呈し、心下痞鞭、胃内停水、心下痞などが見られたと報告している⁵⁾。

使用上の注意

甘草の含有量が多いので、偽アルドステロン症に注意を要する。

臨床応用

本来は下痢を中心とした消化器症状の治療薬であったが、近年になって、頭痛の処方としてよく用いられる。また、他剤との併用で応用範囲を広げることも出来る。

1. 頭痛

胃腸虚弱者の遷延する頭痛に用いることが多い。藤平の報告以来、頭痛に頻用されるようになった。

藤平は、自身の頭痛が桂枝人参湯で治癒した経験から、24例の常習頭痛患者に本方を投与した結果を、次のように報告している。

頭痛の発症は2年から40年位前、19例に胃部症状がみられ、全例に心下痞鞭がみられたが下痢はみられなかった。全例で頭痛は改善しており、12例は報告時点で完治していたが3例は再発していた。

以上の結果から、常習頭痛の使用目標として次のようにまとめている¹⁾。

- 1) 虚証であること。
- 2) 脈は軟、沈、細など。
- 3) 舌は乾湿まちまちであるが、一般には湿潤した微白苔であることが多い。
- 4) 腹力は中等度以下で、上腹部正中線に軽度の抵抗と圧痛があるが、これは剣状突起直下にある場合と中脘付近にある場合との二種類の場合があるようである。
- 5) 上腹部の振水音はある場合と、ない場合とまちまちである。

6) 下痢は発熱のある場合とない場合があるが、常習頭痛の場合は下痢のない場合の方が多い。

その後、呉茱萸湯と桂枝人参湯の比較試験、釣藤散との交差試験の報告がなされている。

関らは、慢性緊張型頭痛を筋収縮性頭痛として、封筒法で呉茱萸湯群と桂枝人参湯群に振り分け効果を検討した。それによると、桂枝人参湯群44例では筋収縮性頭痛が40例、混合型頭痛が4例、呉茱萸湯群は41例と3例であった。4週間後の効果判定では、桂枝人参湯群では著明改善が12例、中等度改善が5例、軽度改善が10例、不変17例で、呉茱萸湯群では著明改善15例、中等度改善が10例、軽度改善が10例、不変9例であった。中等度以上の改善は呉茱萸湯群の方が多かったが有意差は見られなかった。また、痩せ形、軟便がみられる症例では桂枝人参湯の有効例が多かったと報告している⁶⁾。

また、松本らは、慢性頭痛を有する患者に対し、釣藤散と桂枝人参湯の4週間ずつの投与による交差試験を行い、効果を検討している。それによると桂枝人参湯を先に投与した18例中変更を希望しなかったものが10例、釣藤散に変更した8例中4例は桂枝人参湯の方が有用であったと回答した。一方、釣藤散から桂枝人参湯に変更した10例では4例が桂枝人参湯の方が有用であったとした。「極めて有用」、「有用」であった症例は桂枝人参湯で55.6%、釣藤散で40%であった。

また桂枝人参湯では、頭痛の周辺症状としての頸部のこりや痛み、疲労倦怠感などの改善も50%にみられ、頭痛が改善した症例は「寒証」に多く、症状の改善とともに患者の証が「寒証」から「熱証」に変わる傾向がみられた。さらに頭痛の周辺症状では「虚証」においても改善傾向がみられたと報告している⁷⁾。

宮崎らは、桂枝人参湯を用いた報告の中で、頭痛は16例中13例で有効であったと述べている⁵⁾。

2. 消化器疾患

夏の冷飲食や、冬に冷えて下痢した際に良い適応となることがある。山田は「下痢を伴って熱が出て、また、発汗の傾向があり、なお頭痛もあるような感冒性の下痢症に使える場合がある。また、感冒薬で胃腸を害した場合に本方を使用すると胃腸も良くなると同時に感冒の症状も解消することが出来る場合がある。」と述べている²⁾。

1例報告は散見されるが、症例集積研究は少ない。木下は、下痢と頭痛を訴えた感冒の4例に対して本方を投与して速やかに軽快したと述べている⁸⁾。また、宮崎らは28例の慢性胃腸症状を有する症例に対し本方を投与したところ26例で効果が見られたと述べている⁵⁾。

岩崎らは、療養病棟で短期間に連続して発症したノロウイルス感染者5例に対し、補液と同時に桂枝人参湯を4時間ごとに投与した結果、2例は下痢や嘔吐・嘔気の症状が2日で治癒し、3例は症状がやや軽快後半夏瀉心湯に転方して治癒し、蔓延を防止できたと報告している⁹⁾。

3. その他

桂枝人参湯単独使用による1例報告は多数ある。また他剤との併用の報告も見られる。

鈴木らは蕁麻疹や皮疹、リンパ腫様丘疹に用いた報告をしている¹⁰⁾。また、尋常性乾癬に用いた報告もある¹¹⁾。

岡部は、冷え症に人参湯を投与したが血圧上昇を来したため去甘草としたところ、血圧は安定したが火照りと動悸がみられたため、桂皮を加えて桂枝人参湯去甘草で軽快した症例を報告している¹²⁾。

また小林は、異常な暑がりと味覚異常を訴えた高齢女性に対し、本人の自覚しない下半身の冷えを目標として戴陽と考え、桂枝人参湯加附子として治療した1例を報告している¹³⁾。宮崎らの慢性疾患を対象とした報告では、アレルギー性鼻炎や慢性疲労症候群、冷え症に用いている⁵⁾。さらに、桂枝人参湯と小建中湯、桂枝人参湯と真武湯の併用による頭痛や消化器症状などの慢性症状に対して有効であった症例も報告している^{14, 15)}。この他、胸痛(胸痺)¹⁶⁾、起立性血圧調節障害¹⁷⁾、レイノー症状^{18, 19)}、放射線療法後の嚥下障害²⁰⁾、乳癌術後のホットフラッシュなどの報告がある²¹⁾。

また、麻杏甘石湯や当帰芍薬散などと併用して続命湯の方意として用いることもある。

【参考文献】

- 1) 藤平 健: 桂枝人参湯による常習頭痛の治療 日東医誌 15(2) 65-69 1964
- 2) 山田光胤: 安中散、平胃散、桂枝人参湯 漢方医学講座5 4-7 1978
- 3) 矢数道明: 臨床応用漢方処方解説 144-147 創元社 1966
- 4) 松田邦夫 勿誤薬室方函口訣解説(26) 漢方医学講座23 90-97 1983
- 5) 宮崎瑞明 ほか: 慢性疾患に対する桂枝人参湯の治療効果 漢方の臨床 55(4) 553-556 2008
- 6) 関 久友 ほか: 慢性頭痛に対する呉茱萸湯の効果 - 封筒法による桂枝人参湯との比較 - Pharma Medica 11(12) 288-291 1993
- 7) 松本博之 ほか: 慢性頭痛に対する桂枝人参湯と釣藤散の有用性に関する研究 臨床と研究 72(5) 1299-1303 1995
- 8) 木下恒雄: かぜ症候群における桂枝人参湯証について 日東医誌 45(4) 935-939 1995
- 9) 岩崎伸治 ほか: ノロウイルス感染症の病棟内蔓延防止対策としての桂枝人参湯の有用性 漢方と診療 4(3) 198-200 2013
- 10) 鈴木邦彦 ほか: 桂枝人参湯が有効であった皮膚疾患の3例 日東医誌 63 suppl. 319 2012
- 11) 中田真司 ほか: 尋常性乾癬に桂枝人参湯が奏効した一例 日東医誌 59 suppl. 143 2008
- 12) 岡部竜吾 ほか: 最近経験した2症例 漢方の臨床 58(1) 151-154 2011
- 13) 小林 瑞: 異常な暑がりと味覚異常が現れた戴陽の症例 漢方の臨床 54(2) 285-288 2007
- 14) 宮崎瑞明 ほか: 慢性疾患に対する桂枝人参湯合小建中湯の治療効果 漢方の臨床 61(4) 601-610 2014
- 15) 宮崎瑞明 ほか: 慢性疾患に対する桂枝人参湯合真武湯有効例の検討 日東医誌 65 suppl. 218 2014
- 16) 鈴木邦彦 ほか: 人参湯が有効であった胸痺の三例 漢方の臨床 61(6) 979-985 2014
- 17) 若林研司 ほか: 起立性血圧調節障害に対する漢方治療の効果 日東医誌 56 suppl. 195 2005
- 18) 盛 克己: 桂枝人参湯にてレイノー症状が消失した一症例 日東医誌 36(4) 305-306 1986
- 19) 山田光胤: 荀庵治験(100) 活 30(12) 190 1989
- 20) 三枝英人 ほか: 頭頸部放射線治療晩期に発症した進行性嚥下障害に対して桂枝人参湯が有効であった1例 耳喉頭頸 79(8) 589-593 2007
- 21) 小田部圭子 ほか: 乳癌術後のホットフラッシュに対する治療経験の検討 日東医誌 59 suppl. 181 2008